



VOICE 総合診療医と深浦を間近に感じる3日間

張 恵潤 (2年・青森県・地域科)

外傷の縫合や腰痛、風邪など幅広い疾患を診る総合診療医を間近で見学することができ、具体的なイメージができました。先生方が実習生の知識量に合わせた説明をしてくださるので、低学年でも実りの多い実習になると思います。私はこの実習を通して、今まで習ってきた基礎医学が臨床の場で使われているということを実感することができ、勉強するモチベーション向上に繋がりました。

どうしてその実習先を選びましたか？

地域医療の現場を見る

将来は青森県で地域住民を良く知るような総合医として働くことが目標です。そのため地域・へき地医療の現場を実際に見学したいと思い、深浦診療所を選択しました。深浦町は人口の半数以上が高齢者であり、そのニーズに応えた医療を提供することが求められています。これから青森県が直面するであろう高齢化社会に対応するために、今の段階での医療現場の対応を知りたいと思いました。

実習先の良かったところは？

診療所に求められるニーズを知る

地域に密着した医療を体験することができました。患者さんが診療所に求めるニーズについて考える良い機会になりました。特に印象に残ったのは、先生が患者さんと治療方針や生活指導について対等に話しながら意思決定を行っている姿です。医師は患者さんに選択肢を提示する役割を担い、その選択を尊重するという、人に寄り添う医療の形を学ぶことができました。

深浦診療所の実習スケジュール

実習の
流れ

総合診療・地域医療実習

午前

外来・検査見学

- 09:00 外来
検査 (胃カメラ・エコー)
12:00 お昼休憩 (先生方と昼食)
外来

診察の合間に分かりやすく説明をしてもらいました。2年生の知識量に合わせていただけたので、分かりやすく有意義な時間でした！

昼食は先生方と一緒に過ごしました。先生のお子さんの話を聞くなど、和気あいあいとした楽しい時間でした。

午後

出張診療

- 13:30 特別養護老人ホームへのお出張診療
15:30 医師カンファレンス見学

特養では特に患者との関係構築を重視していました。簡単な診察であったとしても触診をしていたのが印象的でした。短い診察時間の中で、患者に満足感・安心感を与えるために行っているそうです。



Q & A

実習参加者の声

Q1. どのような医師になりたいですか？

地域を支える医師を目指しています。

Q2. 最初に立てた目標は？

- 患者は病気の完治を求めているのか、痛みの緩和を求めているのかといった、地域のニーズや高齢化社会において求められていることを知ること。
- 患者の意思を、医師はどのように解釈してどのように叶えているのかを知ること。
- 「総合診療医」とよく耳にするが、実際にどんなことをしているのか。臓器別専門医と何が違うのか。

Q3. つがる総合病院までのアクセスは？

電車で行きました。天候が悪く遅延しましたが、五能線ではよくあるそうです。天候が悪いときはインターネットで運休などの情報を調べつつ、早めに弘前駅まで行き、運行について不安な時は駅員へ実際に聞くのが確実だと思いました。遅延なく順調に行くと、3時間弱で診療所に到着できると思います。

Q4. 実習に向けて準備したことは？

特にありません。

Q5. 宿泊場所はどんなところ？

深浦観光ホテルに泊まらせていただきました。温泉があり、朝夕食付きでした。畳の部屋で冷蔵庫、金庫、テレビ、浴衣、歯ブラシ、タオルなど、基本的なものは用意されていましたが、アメニティ類はないので自分で用意すると良いと思います。

Q6. 食事はどうしましたか？

朝夕はホテルの料理で、お昼は出前を頼みました。先生たちに奢っていただいたので食費はかかっていません（昼食代は先生方のご厚意なので、あてにはできません…）。出前の代金は600円～800円ほどでした。

深浦観光ホテルでは朝夕ともに魚づくしの料理でした。焼き魚に刺身に天ぷらに煮魚に…どれも新鮮でおいしかったです！



Q7. 持ち物は？

KCと白い靴を持参しました。名札の指定はありませんが、持っていけたら良いと思います。

Q8. 衣類以外の持ち物は？

ホテルにメイク落とし、洗顔料、化粧水などはないので持っていく必要がありました。